

<北海道熊研究会報>

第 18 号 2013 年 12 月 1 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

さる 11 月 5 日、UHB 大学主催で、「熊とは、そして、札幌の市街地に熊が出て来る本当の理由」と言う題で、門崎允昭が約 80 分間、道新ホールで 500 名程の聴衆に講演をしました。その全文を、順次、掲載致します。お読み下されば幸甚です。

私は、1970 年から、今日に至る 44 年間、熊をはじめ、北海道に居る、野生動物の、生態・形態・人との関わりについて、調査・研究し、熊に関する学術論文も、37 本公表し、現在に至っています。本日は、それらに基づき、ここにあります題で、熊に付いて、間違った見解を公表している研究者への批判も含めて、熊について包括的に話し致します。

[1] 熊類の分布を世界的に見ますと、現在熊類は北半球の北極圏から赤道にかけて広く 7 種類生息しています。その 7 種とは如何なる熊かと言いますと、それを北の方から言えば、ユーラシア大陸と北米の北極圏には北極熊が住み、その南側に広く熊が棲んでいます（熊は北海道にも居ます）。そして、その更に南側のアジア大陸には月輪熊が（月輪熊は日本の本州と四国にも居ます）、そして北米の同じ緯度にはアメリカ黒熊がいます。さらに、インドのデカン高原にはナマケ熊が、マレー半島にはマレー熊がいます。さらに南米の赤道地帯にはメガネ熊が住んで居ます。ここで、注目すべき事は、赤道から離れた北の方に生息している種ほど、時代的に新しい時代に出現した種で、身体の高さも大型化しているという相関性があります。その原因は、熊類の先祖である原種が熱帯で生まれ、種を分化させつつ、寒い北方へ順次分布を拡大していったからです。

[2] 熊類とは、どう言う動物を言うのか、共通した特徴を、身体の高さについて言いますと、

先ず、手足の指が 5 本で、手足とも掌蹠が、最も短い。そして、歩くとき、手足の裏の全面を、着地して歩ける。手足とも、内側気味（内股気味）に、動かす。

尾が、短い。長いものでも 10cm 以下です。

また、雄の penis には、陰茎骨と言う骨が陰茎の全長にわたり入っている。さらに、歯が 40 本ないし 42 本あって、雑食に適した、歯の形、歯並びになっています。また、身体付きは静

止状態やゆっくり歩いて居る時は鈍重に見えますが、全身をひとたび活発に動かすと、全身に敏捷さが、わき出ているのを、感じさせる獣です。

[3] また、生態的な共通点を上げますと。(生態というのは、生活状態の事で、漢字で4文字、生活状態と書き、その両端の2文字を合体させて作った術語ですが)、妊娠した牝は、閉鎖空間(土穴・張り根下・雪穴など)に入り、子を産み授乳し、子が歩けるようになって、穴から出てくる。そして、子を満1歳過ぎないし満2歳過ぎまで、連れ歩き養育する。北極熊の場合は、餌不足で授乳量が少ない場合満3歳過ぎまで連れ歩き養育します。

また、熊類は、孤独性の強い動物で、複数頭数が行動を共にする場合は、次の3つの場合に限られて居ます。それは、発情した雄と雌が、短期間行動を共にするのと、子を養育している母グマが、子を自立させるまで、連れ歩くのと、それから、母から、自立した兄弟熊が、短期間行動を、共にする以外、常に、単独行動者です。

また、食物が雑食性であることも、特徴です。北極熊も、夏には、ツンドラの灌木林に入って、木の実や草を食べますから、基本的に雑食です。

さらに、熊類が日常的に、使用している場所は、地理的環境(地理的環境とは、地形水理「これは河川湖沼のこと」植生「植生とは、植物の種類とその生え方のことですが」)それから見て、地域として、自然度が最も高い地域を、棲み場としており、それ故、熊は、自然の元締め的生き物である、と言えます。北海道でも、かつて、山で山林作業等をしていた人、この人達を「山子やマゴ」言いましたが、この人達や明治から大正、更に昭和の20年代までの開拓民は、熊を「山親父」と言ったのも、そう言う理由も含まれています。

[4] 日本に居るこれらの動物を、日本語で「クマ」とかヒグマと発音しますが、その発音の由来は何かと言いますと、今から389年前の(寛永元年に)、日本語の発音の由来について、多田義俊が書いた「和語日本声母伝」によれば、「暗くて黒い物の隅をクマと言うから、黒い獣の意味で熊と言うようになった」と講釈しており、私も案外そんな理由だろうと考えています。日本では、本州以南にいる熊を、多くの場合「月輪熊」と言いますが、その理由は、この熊の多くの個体に、首下から胸の上部にかけて、白い毛の斑紋があり、その形が三日月に似ているからです。しかし、1割程の個体は、この白毛の斑紋が全く無く、全身黒毛です(但し、顔が幾分褐色毛のもいます)。

[5] また、熊と言う発音の起源は、西暦100年に、中国の許慎(キョシン)が編纂した「説文解字」と言う、漢字の由来などについて書いた、世界最古の字書に、熊と言う漢字は、罷免の「罷」と、「熊」の字との合体字で、これから能力の能を省いた字であると書かれており、省く前の2字を文字通り発音すると、ヒクマとなり、このヒクマの「クがグ」に濁り、熊ヒグマと発音するようになったのであろうと、要するに、説文解字の解説が熊の発音になったと言うことです。